



○新たな組織として、観光プロジェクト推進室を設置しました。忍城おもてなし甲冑隊の結成や関東Bリーグランプリの誘致など、観光のまち行田を全国に発信しています(写真①参照)。

○南大通線の開通に伴い、市内循環バスの新たな路線「南大通り線コース」の運行を開始しました。JR行田駅行き、工業団地行き各20便、計40便運行しています(写真②参照)。

○妊婦の方に掛かる経済的負担の軽減を図るため、妊婦健康診査、B群溶血性連鎖球菌検査、超音波検査の公費負担を拡大しました。

○70歳以上の方を対象に、肺炎球菌ワクチンの予防接種費用の助成を開始しました。

○太陽光発電システム設置費用の補助を開始し、自然エネルギーの有効活用および地球環境への負荷の軽減を図りました(写真③参照)。

○ごみ質の変化により燃やせないごみの排出量が増えたため、燃やせないごみの収集回数を週一回から二回に変更しました。



市民との協働

開かれた市政の推進と市民参加の促進

○第5次総合振興計画の策定に際し、パブリック・コメントや審議会を開催しました。

○誰もが安心して暮らせる地域社会を目指し、2つの仕組みからなる「地域安心ふれあい事業」を推進しています。1つ目は、ふれあい見守り活動

であり、日ごろの支え合いや災害時での助け合いのために、地域公民館ごとに「ささえあいミーティング」を開催し、地域支援者によるネットワークを強化しました(写真④参照)。また、2つ目は、

いきいき・元氣サポート制度であり、日常生活で支援が必要な方に対して、部屋の掃除、買い物支援などのサービスを提供しています(写真⑤参照)。



○魅力溢れる「元氣な行田」の実現に向け、主体的に地域活動を実践する市民の方々の参加による、「行田市地域活性化推進委員会」を設置し、新たな地域活性化策の検討を始めました。また、地域の活性化や地域コミュニティの再生につながるような地域の自発的な取り組みを支援するため、地域活性化活動補助事業を実施しました。

○市民の視点での行財政改革推進を目的に設置した「行財政改革審議官」から、業務改善の方策や事務事業のあり方について、14項目の提言をいただきました。

○農家の方が作った野菜などを軽トラの荷台に積み、直接販売する「軽トラ朝市」を試行的に開催しました。今後は、毎月第3日曜日の開催を定着させ、さらに地産地消を促進します(写真⑥参照)。

○子供たちの知的好奇心を刺激し、学びの機会を提供する「子ども大学ぎょうだ」を埼玉県やものづくり大学、NPO法人子育てネット行田と連携して開校しました。

今後の取り組み

平成23年度以降も積極的に財政健全化に取り組みます

○市税の納付は、金融機関や郵便局、市役所に限られていましたが、コンビニでも納付できるようになりました。これにより、場所・時間を問わず納付できます。今後市も財政の根幹を成す市税などのさらなる収納率向上を目指し、新たな取り組みを図ります。



コンビニ納税で収納率アップ

○持続可能な市財政の確立に向けて、各種補助金を含めた全事業の総点検により、不要または必要性の薄れた事業を洗い出し、歳出削減を図ります。

○適正な事業の推進と借り入れのバランスをとりながら、市債残高の削減を図ります。

○市内公共施設のあり方を検討する「行田市施設検討委員会」の提言を生かして、施設の有効活用を一層推進し、健全な財政基盤の確立を図ります。○建設事業では、新たな二次製品の活用を検討し、土木建設資材の再生材の使用などと合わせてさらなるコスト削減を図ります。

○遊休市有地や不用道路路敷の売り払いを行い、自主財源の確保および管理費の節減を図ります。

市では、今後も簡素で効率的な行財政運営の確立を目指していくとともに、新たな市民ニーズに対応したサービスの充実を図るため、市民の皆さんの声を十分に反映させ、積極的に行政改革を進めていきます。

▼問い合わせ 企画政策課改革推進担当(内線3009)